

＜本日CPC17周年を迎え主に感謝！CPC信仰の全家族のみなさんにも感謝を！＞

愛するクリスチャンプレイズチャーチ信仰の家族みなさん！昨日まで台風の影響の中お変わりありませんか。本日教会設立17周年おめでとうございます！17年間主の教会の為に変わることなく、共に献身的に仕えて来て下さっているCPC教会全信仰の家族の存在に感謝を申し上げます！クリスチャンプレイズチャーチは、羊飼いのいない羊のようにさまよい、苦勞している多くの群衆をご覧になり、深くあわれみ、心痛んでおられた(マタイ9:36-38)イエスキリストの深い摂理とご計画の中で小牧に地で2003年10月から牧師と共に正式に教会がスタートされ、主の恵みうちに、開拓3年目には、当時まだ教会家族子ども含め約20名もいない中、子どもたちから自分の貯金箱まで捧げながら、共に捧げ踏み出した信仰と献身のゆえ、2006年7月7日、今の新教会堂も与えられ、12年間にわたって2018年11月に教会の会堂返済済みとなられた事も感謝でした。特に、今まで我らの教会の中では4つの家の教会牧場が毎週集われ、5組の牧者と予備牧者の方々が尊い魂の救いとキリストの弟子作りの為に共に献身的に仕え、福音に協力をして下さっている事や毎週小さな子供から大学生に至るまで教会の約30人の信仰継承と信仰告白の為、アワナクラブ10人の先生たちとサポート3人、セクレタリー2人の主の御言葉と愛を持った献身的な仕えと教えに頭が下がり改めて心から感謝致します！すべてを主に感謝し、教会の信仰の家族みんなにも心から感謝致します！（感謝の気持ちとして、ささやかなものですが、愛と感謝を込めたお弁当を用意しましたので、子供たちから始め、みんな各自お取りください。また、今のコロナ時代をよく耐え、共に以前のように、主にある神の家族として、共に牧場で、教会でも食事の交わりが出来る日がやがて来るように共に望みつつ、祈って行きましょう！）

今日はヨナ書について一緒に考えたいと思います。ヨナはイザヤ、ホセア、アモス、ミカなどの預言者たちと紀元前8世紀に働いていた預言者ですが、その名前の意味は‘鳩’という意味です。このヨナ書は4章の短い内容ですが、二つ特徴があります。一つは、他の預言者たちはおもにイスラエルやユダに対する神様の裁きと救いを宣べ伝えています。ヨナ書は異邦の民族に対する神様の救いを預言していることです。そして、もう一つは、預言者ヨナが大きい魚のおなかの中で3日間過ごしたことや、魚がヨナを陸地に吐き出したことや、とうごまの話など超自然的な記事が多いということです。そういうわけで、このヨナ書の歴史性を否定していた人たちもいましたが、ヨナ書も確かに主の靈感による聖書として歴史的事実に間違いありません。これを裏付ける確実な証拠はイエス様から言われた言葉です。マタイの福音書12章40節でイエス様は、「ヨナは三日三晩(みっかみばん)、大魚(たいぎょ)の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、地の中にいるからです。」と言われることにより、ヨナとヨナ書の歴史性を認めて下さいました。

### ＜1. ヨナ書は何を語っている事＞

神の預言者‘ヨナ’はアマタイの子で、預言者として召しを受けました。彼への主の予言はとってもシンプルでした。1章2節を見て下さい。「立て、あの大きな町ニネベに行き、これに向かって叫べ。」でした。

ニネベという都市は当時アッシリアの首都(第二列王19:36)として、今日のイラクにあるテルクユニク(Tell Kuyunjik)というところです。アッシリアはイスラエルの北にある国としていつもイスラエルを苦しめた敵の国でした。その敵国の首都がニネベでした。これを2節では「あの大きな町」だと言ったのは大都市だからよりかは、人口が多かったという意味が大きいです。一般的に当時この都市の人口は30万人ほどだったと推測しています。しかし、ヨナはそれに従いたくありませんでした。それでヨナはニネベに行かず、ヨッパに下って、ニネベの反対方向のタルシシュ行きの船に乗って逃げてしまいます。タルシシュはいまのスペインの南の都市です。彼は船底(ふなそこ)に降りて横になってぐっすり寝込んでいました。つまり、ヨナは神様からの召しに従わない道を選んだわけです。

神様の命令を拒んでタルシシュに向かうヨナにどんどん困る事が起こります。神様が暴風を海に吹き付けたので、激しい暴風が起こり、船は難破しそうになりました。船長は船を軽くするために荷物を投げ捨てました。水夫(すいふ)たちも恐れ、どうしようもできなくなり、死の恐怖まで感じ、自分たちのそれぞれの神々に叫び始めました。なのに、ヨナは船底に降りて寝込んでいるのです。船長はヨナを起こしながら叫びます。「いま何をしているのか。早く起きてあなたの神にお願いしてみてください。」そして、だれのせいでこのような災(わざわ)いが起きたのかくじを引いてみようと思います。結局ヨナが当たり、ヨナのせいでこのわざわいが起こった事が分かりました。それで、人々は「あなたに誰なのか、何をやる人なのかと問いかけます。」そして、どうすればこの怒りの海を静める事ができるのか聞きます。するとヨナは答えます。それが1章12節です。

「私を抱え上げて、海に投げ込みなさい。そうすれば、海はあなたがたのために静かになるでしょう。私はわかっています。この激しい暴風は、わたしのせいであなたがたを襲ったのです。」

確かに、ヨナはこの艱難の原因が何であるかをよく知り、結局自分の問題である事を認めています。

船に乗っていた人々はどうかして陸地に向かうとしましたが、とっても無理だったので、仕方なくヨナを海に投げ込みました。すると海は激しい怒りをやめて静かになりました。ヨナは神様からのがれる事ができませんでした。神様は逃げていくヨナをよくご存知で、あのスペインに向かう船の底に隠れている彼をご覧になっておられました。ここで無所不在(むしょふざい)ど

こでも存在しおられる神様を見る事ができます。

詩篇139篇の内容が思い浮かんで来ます。

「たとい、私が天に上っても、そこにあなたはおられ、私がよみに床を設けても、そこにあなたはおられます。私が暁(あかつき)の翼(つばさ)をかけて、海の果てに住んでも、そこでも、あなたの御手が私を導き、あなたの右の手が私を捕らえます。(詩篇139:8-10)」

愛する信仰の家族のみなさん！我々がどこに行っても神様の御顔を避けることはできません。全能なる主の御前で隠すことはできません。ヨナがニネベに行かず、逃げて行ったのをご存知だったし、そんな彼に分らせるために、神は荒波や強風を吹き飛ばされたのです。ところが、このヨナ書で伝えようとするメッセージはどこにも存在される無所不在の神様を言おうとすることではありません。ヨナ書の内容をもっと調べてみましょう。海に投げ込まれたヨナはどうなりましたか。ヨナ書1章17節をみてください。「主は大きな魚を備えて、ヨナをのみこませた。ヨナは三日三晩、魚の腹の中にいた。」神様は大きな魚を備えて、その魚のお腹の中で三日間過ごします。この時のヨナはもう死んだような状態でした。(5節海草は頭に絡(から)みつく・6節山々の根元まで下り、滅びの穴から引き上げて下さったなど)。

魚のお腹の中で祈った内容がヨナ書2章です。彼は切実な悔い改めの祈りをささげます。その祈りに答えて下さって神は三日後、魚を通してヨナを陸地に吐き出すように直り回復されるように導いて下さいます。そして神様はふたたび使命を与えました。ニネベに行って悔い改めるメッセージを宣べ伝えるようにと命じられました。今回はヨナがすぐさま従いました。彼はニネベに行って40日が過ぎたら、ニネベが滅ぼされると叫びました。その町は大きいので、歩き回るのに三日もかかりました。ところが、ヨナによる神からのメッセージを聞いたニネベの民たちは断食を呼びかけ、自分たちの罪を悔い改め始めました。王もその知らせを聞いて王の服をぬいで、あま布をまとい、灰の中に座って悔い改めました。そして勅令(ちよくれい)を下して国家的悔い改めの運動をうながします。これが3章の内容です。

預言者たちがイスラエルとユダの民に悔い改めるようにと叫んだ時は、頑なな心で聞かなかったものの、むしろニネベの人々は即刻(そっこく)悔い改めることができました。半面どれだけイスラエルの民が神様の前で頑固なのかを照らし合わせてくれます。神は異邦の国であっても、神の御言葉を信じ、受け止め、悔い改める祈りをささげたニネベの人たちの悔い改めの祈りを聞いて、彼らに下そうとされたわざわいを思い直し、滅ぼしませんでした。これがヨナ書の3章の内容です。

## <2. ユダヤ人だけが救いの対象なのか。>

ところが4章をみると、ヨナは喜ぶところか、ニネベの人々が悔い改めたことに対して非常に不愉快(ふゆかい)になりました。4章1節をご覧ください。ヨナは怒っています。「ところが、このことはヨナを非常に不愉快にした。ヨナは怒って、2主に祈った。」そして、3節ではいきなりヨナは自分が生きているより死んだほうがましだとつぶやいています。ヨナはニネベの人々の悔い改めになぜ腹を立てたのでしょうか。ここでこのヨナ書が我々に伝えようとする大切なメッセージがあります。ヨナには一つ固執していたことがあります。すなわち、ユダヤ人だけが救われるべき民であるという思いでした。

そういうわけで、ニネベの民が悔い改めて救われることが気に入らなかったのです。実際、彼がニネベに行って悔い改めるように宣べ伝えなさいという神の命令を拒んでタルシシュに逃げていた理由もここにありました。神様の預言者でしたが、ヨナはイスラエルの敵の国の首都であったこのニネベの民が神に裁かれ、滅ぼされる事を願っていたのです。しかし、ヨナはよく知っていました。神様は哀れみ深く、恵みに満ちておられる方ですから、イスラエルじゃなくても異邦の国のニネベの民でさえも神の御言葉通り従って、悔い改めて神に立ち返る時でも、神様が思い直し、神の災いから救い出して下されるお方であることを知っていながらも、本音はそうならないで欲しかったので、悔い改めのメッセージを伝えず、タルシシュに逃げたわけです(4章2節)。

彼がタルシシュに逃げたのは信仰がなかったわけでもなく、習慣的な不従順のためでもありませんでした。ただ、一つの理由のためでした。つまり、イスラエル民族自分たちだけ救われるべき民だと信じ込んでいたからです。つまり、ヨナは偏った民族主義者だったのです。ニネベはアッシリアの首都だと申しました。アッシリアはたえず、イスラエルを脅す敵国でした。そういうわけでニネベがきらいで、彼らが救われる事を願いませんでした。神様はこのようなヨナの思いを直そうとしたわけです。神様は“あなたはなぜそんなに怒っているのか”と叱りました。しかし、ヨナはニネベの町が見える町の東の方に座って、仮小屋を作ってニネベの様子を見ようとしていましたが、一本のとうごまが生えてきて日陰になってくれたので、ヨナは非常に喜びました。

ところが、次の日には一匹に虫が出てきて、かんでしまい、とうごまは枯れてしまいました。暑すぎて死にそうになったヨナは衰え果てて“私は生きているより死んだほうがまし。”とつぶやきます。すると神様はとうごまが枯れたことでなぜ怒っているのかとヨナを叱ります。10節と11節です。「主は言われた。「あなたは、自分で労さず、育てもせず、一夜で生(は)えて一夜で滅びたこの唐ゴマ胡麻(とうごま)を惜(お)しんでいる。まして、わたしは、この大きな都ニネベを惜しまないでいられるだろうか。そこには、右も左も分からない十二万以上の人間と、数多くの家畜がいるではないか(わたしが惜しまずにいられようか)。」

### <3. すべての民族に与えられた救いの福音>

ヨナ書の簡単にまとめましたが、この神の御言葉ヨナ書は我らに何を語っているのでしょうか。神様はすべての人が神の救いに導かれる事を喜んでおられる方である事を示して下さい。ヨナは自分の民だけが救われるべき選ばれた神の民だと思いついて、他の民族に行って伝道する事を！特に、自分たちを苦しめている一番自分たちに苦手な人々に神の福音を分かち合い、伝えることを拒みました！アッシリアが敵国という民族的感情、そして個人の感情のために、逆に本音は自分たちの罪のゆえに裁かれ滅ぼされる事を願っていたかも知れません。しかし、神様はこのような偏った信仰をもっているヨナのが考え方が直される事を願われました。そして、イスラエルの民だけが神に救われる民であるという固定観念と固執がやぶれる事を願われました。神様はすべての人、すべての民族が救われる事を望まれ、すべての人に憐れみと愛をもって顧みて下さる神様です。ですから、ユダヤ人だけではなく、異邦人とすべての民族が神の救いの福音を聞いて悔い改めに導かれ、救われる事を願っておられるのです。これがヨナ書を通して与えられる神様からのメッセージです。

すべての人に、民族に与えられるこの神の大きな愛を、神様はイエス様が生まれる2700年前に、すでにヨナ書をおして教えて下さったのです。ルカはイエス様の誕生がユダヤ人だけではなく、「民全体のためのすばらしい知らせ(ルカ2:10)」だと言いました。しかし、ペテロもヨナのように偏った民族主義者でした。彼もユダヤ人だけが救いの対象だと考え込んでいました。このペテロの信仰と考え方も直される出来事が使徒の働き10章でした。ユダヤ人伝道だけこだわっていたペテロに神様はイタリヤ人百人隊長であったコルネリウスとその家族の救いの為、区別なく、差別なく、イエスキリストの福音の御言葉を伝え、神の救いを得られるように導いて下さったことが分かります。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰のみなさん！我々も、絶えず、神の御言葉を開くたびに、神の御言葉の前に座りたびに、神の御言葉を聞くたびに、神の御言葉を鏡として、基準として自分に照らし、移させ、適用して、偏っている偏見、固定観念、間違った考え方を絶えず、打ち壊さなければなりません。いつも神の御言葉に沿ってやり直す作業をしなければなりません。我らの人生は、絶えず自己中から神様の方に、絶えず自分の偏った思いと固執を神の御言葉に、合わせやり直しに行く作業の連続とプロセスではありませんか。

さきほど読んだ本文の4章11節で二つの単語に注目したいですが、一つ目は「この大きな町」という単語です。この単語は4回出ます。1章2節、3章2節、そして3章3節と4章11節に出ています。この大きな町というのはニネベが大きな都市である事言っているのだと解釈する事ができまが、ヘブル語では「ハイル・ハゲドラエロヒム」で、直訳すると、「神様にとって大きな町」という意味です。つまり、神様にとってニネベもとても大切な町という意味でもあるわけです。

人々の目で彼らは単なる神を知らない、神を離れて生きて来た異邦の民族として、イスラエルの敵の国の人々でしか考えないとしても、神様にはその町に住む大勢のたましいさえも大切に思われるという意味です。なぜでしょうか。神様にはとっては神の信じるイスラエルの民だけではなく、まだ信じてない大勢のたましいも神によって造られ、一人も滅んでほしくないのは神様の御心だからではありませんか。神によって造られ、命が与えられ、生かされているすべての人々が、あらゆる民族が罪赦しを頂き、神の救いに至る事を神ご自身が一番望んでおられるからです。

「第一テモテ2:4神は、すべての人が救われて、真理を知るようになることを望んでおられます。」

「テトス2:11実に、すべての人に救いをもたらす神の恵みが現れたのです。」

「(出19:5)今、もしあなたがたが、確かにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはあらゆる民族の中にあって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。」

「(詩篇86篇9-10節)主よ。あなたが造られたすべての国々はあなたの御前に来て、伏し拝み、あなたの御名をあげます。まことに、あなたは大きな方、奇しいみわざを行なわれる方。あなただけが神です。」

「私は福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。(ローマ1章16節)」

「私の福音、すなわち、イエス・キリストを伝える宣教によって、また、世々にわたって隠されていた奥義の啓示によって、26永遠の神の命令にしたがい、預言者たちの書を通して今や明らかにされ、すべての異邦人に信仰の従順をもたらすために知られた奥義の啓示によって、あなたがたを強くすることができる方、知恵に富む唯一の神に、イエスキリストによって、栄光がどこしえまでありますように。アーメン。(ローマ16:25-27)」

二つ目の単語は、「右も左もわからない」という単語です。これはニネベに住んでいる幼児以上の人を意味します。一般的に当時ニネベの人口を30万人に見ていますが、「右も左もわきまえない十二万人以上の人間」というのは幼児を含むと60万人ほどで考えられます。それは、単なる人の人数を意味しているだけではなく、霊的に言うと、神様を知らないすべての人々を意味しています。神様はここの右も左もわきまえない人々、つまり、どんな神様が真の神であられるか、どうすれば真の神による罪赦しと救いを得る事ができるかもわからない人々でさえも、神は哀れみ、愛しておられる事を教えて下さっています。

<結論-クリスチャンプレイズチャーチ設立17周年を迎えもう一度主からの使命とビジョンを握って！>

ヨナの思いと神様の思いは違っていました。ヨナは自分の民だけが救われるべきだと思いついていましたが、神様の思いは

そうではありませんでした。神様はすべての民族、すべての人種関係なく、すべての人とたましいが救われるように神様の愛はすべての民族に及ばされています。まるで、あっちこっち関係なく、雨を降らせ、同じく太陽を照らして下さるように、神様は我々の考え、我々の民族感情の限界を超えた普遍的な愛を表して下さいます。あの北朝鮮のような共産国家の人々にも、イスラムの人々にも、時には我々が憎んでいる人にも、私たちを苦しめる人々にも、自分に害を与える人々にも神様の愛されている存在であり、救われるべき存在である事を覚えなければなりません。

我々は自分が嫌いな人も神様にとっては大切な人であり、神様の目では大切なたましいであることを覚え彼らのために祈り、神の愛と福音を分かち合っていかなければなりません。神様は何よりも、今日も神様によって造られたすべての民族が神様を知り、信じて救われる事を待っております。この魂の救いの尊い宣教の働きのために、神ご自身がこの小牧の地に主の教会を17年前に建てて下さいました。この小牧の地にも、この愛知県、東海地区にも真の神を知らずに、真の神の愛と救いを切に待ち望み、救われるべき神の民が多くいるのではありませんか。ひとりのたましいでも永遠に滅びることがないように、ひとりのたましいでも救われるように、神様は我らの教会、先に神を信じている我らを通して神の愛と福音がこの町に住んでいる人々に宣べ伝えられるようにするために、クリスチャンプレイズチャーチを建てて下さったのではありませんか。  
**「この町には、わたしの民がたくさんいるのだから。(使徒18:10)」**

神様は今日もこの日本の神様を知らない1億2千5百万人の多くの魂のために、この小牧の16万人ぐらいの魂の救いを助けるためにヨナのように我らを先に信じさせ、この地に遣わし、尊い使命を今も我らに与えて下さっているのです。**「(マタイ28章19-20節)あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、20わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」**

神様は我々をも神の救いの御業がなされるよう、ともに協力してキリストの愛の道具として、用いられる事を願っております。17周年を迎えた今日から、これからもずっと主の救いの福音の道具として、我ら共に小さなイエス、真のキリストの弟子となって、キリストの愛を持って仕え、尊い一人の魂でもさらに救われる感激と祝福をともに味わって進み行くクリスチャンプレイズチャーチの全神の家族となりますよう救い主なる主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！



Christian Praise Church